



北・その自然と人

札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター

Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然系総合博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2011.7 No.45

発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

標本を残す意味

～陸前高田市立博物館所蔵植物標本レスキューから～

北海道内でも東日本大震災で被害を受けた標本のレスキュー(修復)が行われているという新聞記事を目にした方もいると思います。当センターでも陸前高田市立博物館の植物標本の修復を行っています。私たち博物館スタッフには「博物館に収蔵されている標本は現在を映し出すもので、未来に継承していく実物記録」という共通認識があります。事実、実物標本はDNA情報など、写真やデジタルデータでは再現できない貴重な情報を含んでいます。その観点から、少しでも多くの標本を残すために今回のレスキュー作業に参加しました。

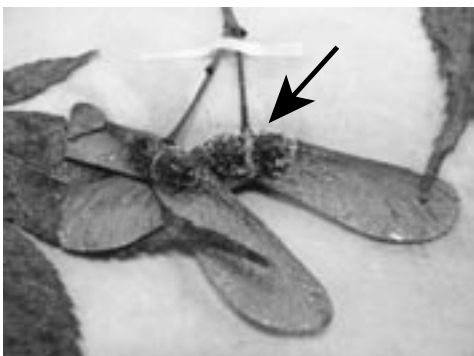
植物の標本は押し葉にして乾燥させます。それだけでは「ただの押し花」ですが、博物館の標本は「いつ、どこで、誰が採集した、何という名前の植物なのか」が書かれた紙(ラベル)をセットにして、A3サイズほどの台紙に張り付けて保存されます。これは数百年も前から変わらない、世界共通の方法です。つまり、植物の押し葉標本は乾燥しているからこそ、長い年月を保存することができます。その標本が津波の泥と海水でぬれてしまったのです。お預かりした標本の中には、水を吸ってふにゃふにゃにふや

けたり、カビたりしているものもありました。ラベルの文字がにじんで消えかけている部分もありました。

レスキュー作業では、まず標本をエタノールを薄めた水に入れて消毒し、泥やカビを筆で優しく取り除いてから真水につけて塩抜きをし、再び乾燥させます。昔から標本収集にはアマチュア研究家が大きく関わる事が多く、ラベルには多くの人々の名前や筆跡が残されています。視点を変えれば、ラベルはその標本に関わった人間の歴史をたどることのできる資料(史料)にもなるということです。

レスキュー作業を通して、標本を残すことの意味は研究データの裏付け証拠としてだけでなく、「標本となった生物や、そこに関わった人々がその地域に生きていた証しを残すことでもある」と思いました。残された標本が被災地の過去の植物相(植生)を再現し、これからの新たな自然風景を想像させるのに活用されることを祈ります。(山崎)

※レスキュー作業は岩手県立博物館から協力依頼を受けて行っています。



カビか、塩の結晶か?白い粉状のものが出ている。



ていねいに台紙から標本をはがす。



標本を水につけて塩抜きする。

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

行事レポート

体験学習会「植物から札幌の原風景を探る」7/2(土)

今はビルや住宅が立ち並ぶ札幌ですが、そのすき間にももとの地形や植物が残っている場所を発見できます。参加者の皆さんは開拓前の札幌の自然風景と人の関わりによる変化をイメージできたようです。今回初めての企画でしたが、好評だったので来年度も開催する予定です。



ヒオウギアヤメ



ヒシとイトトンボの一種



モエレ山山頂から地形を眺望



モエレ沼の水草を観察

写真撮影：米本琴美

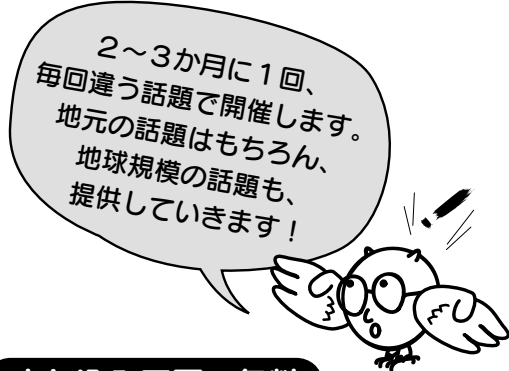
サイエンス・フォーラム in さっぽろ

■第7回「支笏湖ものがたりー支笏湖学のすすめー」 3/6(日) 14時～16時

お話し：若松 幹男 氏 (技術士、北海道地質調査業協会技術アドバイザー)

■第8回「宮沢賢治の地的世界ー地質学と文学の異分野融合ー」 5/21(土) 14時～16時

お話し：加藤 碩一 氏 ((独)産業技術総合研究所フェロー、(前)地質調査総合センター代表)



2～3か月に1回、
毎回違う話題で開催します。
地元の話はもちろん、
地球規模の話題も、
提供していきます！

申し込み不要、無料

■第9回 7/23(土) 14時～16時「虫のみつけ方 しらべ方 みわけ方 北海道の昆虫を題材に」

お話し：大原昌宏氏(北海道大学総合博物館准教授) 対象：小学生～大人一般

会場：札幌市ボランティア研修センター第1研修室(イス100席)

主催：サイエンス・コンソーシアム札幌 (札幌科学談話会・札幌市博物館活動センター・札幌市中央図書館)